

2022 年度版 公害総論 科目模試

2022 年 5 月 23 日更新

正誤表

公害総論 科目模試

該当箇所	上段：誤、下段：正
問題集 p.7 問 11 問題文 ※問題文相違、 差替願います。	<p>問11 平成 30 年度における騒音・振動問題の環境基準の達成率及び苦情に関する記述として、誤っているものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 一般地域における騒音の環境基準の達成率は、全測定地点で 89.4%であった。(2) 騒音の苦情件数を発生源別にみると、建設作業に関するものが最も多い。(3) 近隣騒音の苦情件数は、騒音に関する苦情全体の約 16.6%を占めている。(4) 振動の苦情件数を発生源別にみると、交通機関に関するものが最も多い。(5) 風力発電施設の増加に伴い、騒音・低周波音による苦情が発生している。 <p>問11 騒音に関する苦情件数に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 総務省「公害苦情調査結果報告書」によれば、2014（平成 26）年以降の苦情件数は、騒音、大気汚染、悪臭、水質汚濁、振動の順に多い。(2) 環境省「騒音規制法施行状況調査報告書」によれば、騒音の苦情件数は 2006（平成 18）年以降、横ばい傾向である。(3) 環境省「振動規制法施行状況調査報告書」によれば、振動の苦情件数は、1999（平成 11）年以降、3000 件超の状態で横ばい傾向である。(4) 環境省「騒音規制法施行状況調査報告書」によれば、1999（平成 11）年から 2019（令和元）年の期間について、騒音に関する苦情のうち、工場・事業場で測定された値が規制基準を満足していた割合（適合率）は約 70%である。(5) 環境省「振動規制法施行状況調査報告書」によれば、1999（平成 11）年から 2019（令和元）年の期間について、道路交通の適合率は 100%近い高い適合率で推移しているが、苦情件数はゼロとはなっていない。

※上段の問題の正答・解説は、本案内に同封した【別紙】を、

下段の問題の正答・解説は、採点結果と一緒に送りする『正解と解説』をご覧ください。

【別紙】参考：修正前の問題・解説

問11 平成30年度における騒音・振動問題の環境基準の達成率及び苦情に関する記述として、誤っているものはどれか。

- (1) 一般地域における騒音の環境基準の達成率は、全測定地点で89.4%であった。
- (2) 騒音の苦情件数を発生源別にみると、建設作業に関するものが最も多い。
- (3) 近隣騒音の苦情件数は、騒音に関する苦情全体の約16.6%を占めている。
- (4) 振動の苦情件数を発生源別にみると、交通機関に関するものが最も多い。
- (5) 風力発電施設の増加に伴い、騒音・低周波音による苦情が発生している。

問 11 正解 (4)

解説

STEP1

平成30年度における騒音・振動に関する環境基準及び苦情件数に関する問題です。

STEP2

振動の苦情件数を発生源別にみると、最も多いのは建設作業です。交通機関ではないため、(4)が誤りです。これ以外の選択肢は正しい説明です。これらの知識も記憶にとどめておきましょう。